

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルスとは

新型コロナウイルス感染症は、令和元年12月に中国の武漢市を中心に発生したと推定される感染症で、半年間で世界中に広がりました。

日本では令和2年1月下旬に日本人初の感染者が報告され、4月に第1波の流行となりました。その後、緊急事態宣言が出されて感染拡大は落ち着いてきたものの、経済活動の再開とともに第2波、12月以降は第3波の感染流行が生じています。

この感染症がこれほど社会に大きな影響を与えた理由として、新しい感染症で十分な検査体制や確実な治療薬、ワクチンがなかったこと、無症状の感染者が知らない間に他人へ感染して広がること、高齢者や基礎疾患がある人では重症化率や死亡率が高いことなどが挙げられます。このような理由が、近代まれに見る最悪なパンデミック（世界

的大流行）となっているのです。

感染経路

感染経路は「飛沫感染」と「接触感染」です。人と食事をしている際は、唾液などの飛沫が飛び交い感染リスクが高まります。接待を伴う店では飲食だけではなく、マスクなしの会話が多くなり、さらに注意が必要です。外食は感染防御対策をしている店を選ぶこと、店内が混雑している場合や、大声で会話する人がいる場合は利用しないことも重要です。また、多くの人が使用する施設では、ドアノブなどに触れるときにウイルスが付着するリスクがあり、こまめな手指消毒や手洗いが大切です。

危機的な医療状況

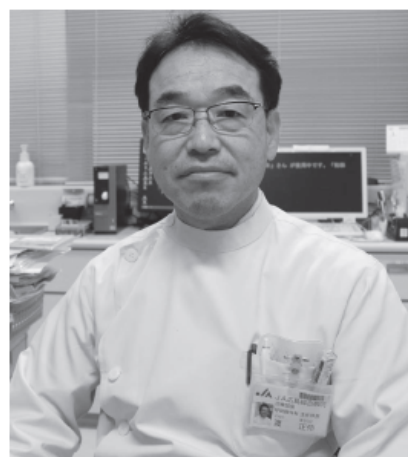
令和2年12月時点の広島県では感染者が著しく増加しており、このままでは医療が崩壊してしまいます。多くの中核病院は、新型コロナウイルス感染者を収容して治

療していますが、その収容能力も限界にきています。さらに、

院内でクラスター（集団感染）が生じると病棟閉鎖や病院閉鎖になりかねません。病院で働く医療スタッフは、その家族に感染者が出た場合、自分自身は感染していても濃厚接触者となってしまうため、最低2週間は出勤できません。また、現状が続けば医療現場から離職するスタッフも増え、人手不足から病院機能の維持が困難になります。救急患者を収容できない、がんなどの必要な手術を延期しなければならぬといった状況に陥るかもしれません。

感染拡大を防ぐために

新しい生活様式としてのマスク着用、手指消毒や手洗い、換気などは基本といえます。医療崩壊を防ぐためにも、感染予防対策を徹底しましょう。



J A 広島総合病院
院内感染対策委員長
渡 正伸 先生

なるほど 健康講座

問い合わせ
健康推進課 ☎ 1610

佐伯地区医師会（ホームページ <http://saikima.jp/>）

佐伯地区医師会は、廿日市市・江田島市（能美町・沖美町・大柿町）で開業または勤務している医師で構成されています。日本医師会や広島県医師会と協力しながら、地域に密着した医師会として約15万人の地域住民の健康を守るため、学校医、産業医、健診、救急医療、在宅医療などさまざまな仕事をしています。